

古代中国研究の最前線

考古発見と歴史研究

開催形式：ZOOMによるオンライン開催

【講師プロフィール】

■講師：小林 文治氏

(早稲田大学長江流域文化研究所招聘研究員)

1982年生まれ、群馬県出身。早稲田大学文学研究科博士後期課程修了、博士(文学)。北京師範大学歴史学院博士後を経て、現在早稲田大学長江流域文化研究所招聘研究員。専門は秦漢社会経済史、簡牘学。近著に「洞庭郡遷陵県の開発と秦の「地域統治」—人口移入と公田経営からみた—」(『史学雑誌』130-4、2021年)、「從労働看秦的律令与基層社会的關係」(『文史』2021年第1期)などがある。

■講師：野口 優氏

(中山大学歴史学系(珠海)副教授)

1986年生まれ、福岡県出身。京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士(文学)。京都大学人文科学研究所研究員を経て、2018年より中山大学歴史学系(珠海)・副教授。専門は漢代政治制度史、出土史料研究。代表論文に「黄紙詔書再考」(『汲古』69、2016年)や「漢魏時代における上奏文処理手続きと皇帝裁可」(『史林』101-6、2018年)などがある。

■講師：市来 弘志氏

(同済大学外国語学院日語系外籍教師)

1966年生まれ、東京都出身。学習院大学文学部史学科卒業。同大学院博士後期課程修了、博士(史学)。専門は魏晋南北朝史、特に五胡十六国時代民族史・歴史地理。学習院大学文学部助手を経て、2012年より中国西安で勤務、陝西師範大学外国語学院日語系外籍教師。現在上海同済大学外国語学院日語系外籍教師。近著に「統万城」(窪添慶文編『魏晋南北朝史のいま』、「アジア遊学」213号)などがある。

参加無料・事前予約制

監修：前田 直子(東洋文化研究所長)

司会：植田喜兵成智(東洋文化研究所助教)

庄 卓 燐(東洋文化研究所助教)

学習院大学東洋文化研究所





第104回 | 日時:10月20日(水)18:00~20:00

中国簡牘研究の最前線 —新出土・新整理・新視点—

小林 文治 氏(早稲田大学長江流域文化研究所招聘研究員)

近年中国では竹簡・木牘など簡牘の発見がますます増加し、研究が加速度的に進んでいる。筆者は中国の研究機関に在籍していたことから、如上の状況を間近で体験しつつ、自身も最新の資料を利用して秦漢史研究を進めてきた。では、私たちはこれら中国の簡牘にどのように向き合えばよいのだろうか。本講座では近年新しく出土した簡牘、発掘済み簡牘の整理状況、最新の資料による新しい研究を紹介しつつ、今後の日本における中国簡牘研究の展望を試みたい。

第105回 | 日時:10月27日(水)18:00~20:00

出土簡牘の「風水宝池」:湖南省出土の漢・三国呉簡

野口 優 氏(中山大学歴史学系(珠海)副教授)

中国湖南省長沙で出土した前漢時代から三国呉の簡牘について、①簡牘とは何か、②なぜ長沙から大量の簡牘が出土するのか、③長沙出土簡牘の種類、④長沙出土の簡牘から見た漢代から三国呉までの文書制度などの内容を中心に紹介したい。特に、④について、現代日本の行政手続きにおける印鑑廃止問題とも関連する可能性のある漢代から三国呉にかけての署名と印章どちらが公文書の信用性を担保していたのかを考察したい。

第106回 | 日時:11月10日(水)18:00~20:00

長安城遺跡の新発見と現況

市来 弘志 氏(同済大学外国語学院日語系外籍教師)

陝西省は中国で最も埋蔵文化財が豊かな地域である。中でも漢長安城と隋唐長安城は都市および周辺の遺跡の発見が相次ぎ、研究がさらに進展した。また世界遺産登録を契機に都市遺跡の保護が急速に進み、遺跡自体が大きな変貌を遂げた。ここでは近年の発掘成果と意義を、現地の状況と併せてご紹介したい。

学習院大学東洋文化研究所

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1(学習院大学 北1号館4階)

■ JR山手線目白駅 徒歩1分

TEL:03-5992-1015 FAX:03-5992-1021

E-mail:ori-off@gakushuin.ac.jp

URL:<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/rioc/index.html>



参加希望者は下記の登録フォームからご記入し、お申し込みください。
<https://forms.gle/GsFCXTFwVqEPL1cd8>